



H22. 3. 9. No1270  
静岡県漁業協同組合連合会  
☎054-254-6011 Fax054-253-9343  
編集・発行＝指導部 漁政課  
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

## 自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

席上、県漁連と清水海上保安部による「静岡県ライフガードレデース (LGL)」委嘱及び披露式が執り行われました。今回委嘱を受けたのは、御前崎漁協女性部 (60名：漁協職員1名) と浜名漁協女性部 (15名) で、会場参加者と海上保安部マスコットくうーみん>が見守る中、清水海上保安部の星部長から代表者7名にそれぞれ委嘱状が手渡されました。

静岡県のライフガードレデースは、本年1月26日、由比港漁協女性部79名が県下で初めて委嘱されており、救命胴衣の着用を家庭内はもちろん、漁港内でも呼びかけ運動を行い、お父さんや息子の尊い命を守ろうというものです。

本県では、今回の委嘱者を合わせると155人を数え、関東・東海地方で一番多くの救命胴衣着用推進員を擁することとなりました。漁協女性部連合会では「ライフジャケットは家族の愛情」を合言葉に、今後救命胴衣着用運動の輪を広げる活動に協力することとしています。

その他、会員同士の交流会を開催したほか、引き続き歌うよろず屋 佐藤美奈子さんによる記念コンサートが行われ、シャンソンからクラシック、童謡まで幅広いジャンルの歌声で会場を魅了しました。

### 3. 地域づくりと協同組合運動をテーマに ―県協同組合間提携推進(協)シンポジウム―

本県では平成2年より、農協中央会、経済連、県信連、森連、生協及び本会が構成員となり、各団体との事業提携を推進するため、静岡県協同組合間提携推進協議会を設置していますが、その一環として2月26日静岡市において、第18回静岡県協同組合間提携シンポジウムを開催しました。

当日は、県内協同組合関係者や連合会役職員の学習及び交流の場として、約100名の参加を得て、記念講演「地域づくりと協同組合運動」(講師：佛教大学社会学部教授 濱岡政好氏)が行われ、“協同組合運動は地域づくりへの関わりと人づくりが大切である”ほか協同組合等による都市社会における地域づくりの事例が数々報告されました。

その後、各協同組合それぞれから、次のとおり活動報告がなされました。

①農業「掛川市農業活性化やる気塾の取り組み」 ②漁業「NPO はまなこ里海の会の活動について」 ③森林「森林資源の活用と地域づくり」 ④生協「コープしずおか組合員活動の現状と課題」

### 4. 駿河湾のさかなに触れて、歓声が上がる

#### ―チビッコおさかな料理教室―

県おさかな普及協議会(橋ヶ谷善生会長)では、2月5日 東新田保育園(静岡市駿河区)において、お魚ふれあい事業(県補助事業)の一環として味覚形成の確定期である幼稚園児を対象に、チビッコおさかな料理教室を開催しました。

当日は年長園児47名が、県おさかな普及協議会事務局より「駿河湾のさかな」について説明を受け、金目鯛・タチウオ・鯖・鰯の鮮魚を実際に触れ体感したほか、「さかなの栄養」(末永東海大学短期大学部准教授)と題したお話を聞きました。また、スタッフの巧みな進行のもと腹開きしたイワシを使ったつみれ汁を調理しました。園児達には、併せて調理提供された伊豆産のブリの煮物・ひじきご飯やところ天が振る舞われ、美味しく試食しました。

## 漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう

### 1. JF新運動方針とアクションプランの「県域説明会」を開催

本会では、2月22日静岡市において、JFグループの新運動方針「JFグループ 組織・経営・事業戦略(2010-2014)」の県域説明会を、県下漁協の組合長や役員、総務関係の部・課長をはじめ、県水産局と県水産関係団体職員等50名の参加を得て開催しました。

説明会は、まず本会から「静岡県における漁協再編強化の取り組み」と題し、これまでの経過や取り組みの総括及び今後の課題について説明しました。また、全漁連から説明者として、長屋常務、石川信用・組織指導部長、山村(同)部長代理が参加し、新運動方針とアクションプランについて説明が行われました。

新運動方針策定の背景は、水産資源の減少や漁業就業者数の減少など厳しい漁業環境を打破するためJFの存在意義や役割の再確認のほか、組織や事業課題への取り組みを整理し、新運動方針の策定を行うものです。

新運動方針の重点事項は①組織・事業再編と人づくり ②経営改革に向けた取り組み ③事業改革に向けた取り組み ④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献 の4点で、併せ漁業・漁村の活性化に向けた政策要望(◇生産・地域の担い手確保 ◇漁船漁業の生産構造展望の明示とその現実 ◇水産資源の維持・回復 ◇JFの役割の明確化と機能発揮 ◇生産コストに見合う魚価実現に向けた産地・漁業者の取り組み支援)を、アクションプラン(=行動計画)に照らして実践していきます。

組織強化のための第一段階として、漁協・漁連・信漁連では、5年後10年後の将来像をシミュレーションするため、全漁連が用意したエクセルシートに過去10年間の財務及び経営に係る数値を入力することで、各組織の成り行きによる将来状況を作成することになります。その上で実務者を中心に課題の抽出と対策の整理を経て、各組織の理事会で協議・検討を加え承認を得た上で、3月末までに本会まで提出頂くこととしています。

その後、県漁連ではシミュレーション結果を取りまとめ分析・評価し、将来課題を踏まえた上で、県内事業・組織の在り方を検討し、「事業別及び組織の将来ビジョンの策定」を9月までに行うほか、組織・事業再編の取り組み方向を明らかにし、来年3月末までに「県域ビジョン」を作成、全漁連へ提出していきます。

### 2. 第53回県漁協女性部大会を開催 LGL委嘱式とシャンソンなど歌声が会場に響く

県漁協女性部連合会(岡田初美会長)では、3月2日静岡市・県男女共同参画センター(あざれあ)において、県下の漁協女性部員等160名の参加のもと、第53回県漁協女性部大会を開催しました。

当日は、岡田会長の主催者挨拶に続き、来賓の日向水産局長、県漁連の橋ヶ谷会長、県信漁連の宮原会長からそれぞれ祝辞が述べられました。

## 安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう